

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームひだまりの丘 ありんこの家	評価実施年月日	平成 20年 9月 18日
評価実施構成員氏名	・石黒 愛子 ・高橋 洋子 ・赤部 節子 ・作間 玲子 ・蛭原 和子 ・中本 真澄 ・田野 久子 ・西浦 哲		
記録者氏名	石黒 愛子	記録年月日	平成 20年 9月 25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域活動へ積極的に参加、地域の方と関わりながら、住み慣れたグループホームでの生活が継続できるようにケア目標を作りあげている</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員の採用時には理念の説明を行うとともに、カンファレンスの際には理念を確認共有し個別介護計画書作成に具体化し日々のケアを実践している</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ケア目標にそって個別介護計画書を作成し実践している ご家族様には面会時や計画書見直しの際など、意見や要望をうかがっている また、地域からのボランティアの受け入れや、運営推進会議の場で取組みを報告するようにしている</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の商店の利用、行事の際はお誘いをしたり、日ごろから関係を深める努力をしている また、近隣の方が見学やボランティアとして来ていただいている 今後も開かれたホームを目指し地域との交流を深める努力をしている</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、町内会の行事にはできるだけ参加するようにしている 新年会・盆踊り・運動会・ラベンダー祭り・AED救急研修等</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々の役に立てるように町内の花壇の植栽や草取り等の活動に参加している 機会があれば、地域の方々を対象とした講習会をおこないたいと思っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組んでいます 外部評価の結果については、職員の研修や改善の機会として捉え、ケアの向上に活かしている		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に計画的に開催し、サービス提供の内容報告を行なうとともに、地域やご家族様からの意見を検討し次回に報告するなどしている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市で構成する管理者会議に出席し、グループホームサービスの質の向上に取り組んでいる 認知症介護実践者研修の実習生の受け入れを行なっている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要な人への体制はできているが、さらに今後勉強会を行っていく		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	個々に講習会等に参加しているが全員で虐待防止の徹底を行なっている		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書をもとに重要事項を説明し同意を得ている また、グループホームでの生活が継続できなくなった場合は家族と相談し納得して頂いたうえで契約解除している 退居後の不安がないように医療機関などの紹介をおこなっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>特にそのような機会はないが、日々の関わりのなかで思いをくみとる努力をしている</p> <p>利用者の立場に立ったケアを心がけている</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>日常生活の様子を載せたありんこメールを毎月発行し、コメントと写真を同封している</p> <p>また、預かり金の補充の際は領収書を発行、出納表の確認も頂いている</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年1回家族アンケートの実施、運営推進会議は必ず家族の出席をお願いし、意見を頂きケアの改善や見直しに反映している</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年2回法人で各職員の自己評価が実施されており、意見や要望を伝える機会がある</p> <p>また、毎月のミーティングでも意見が言えるようにしている</p> <p>管理者が解決できない内容についてはGH事業室にて検討している</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>各ユニットに常勤7名の他にひだまりの丘で非常勤のスタッフ2名おり無理のないようにローテーションをくんでいる</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動があった際には入居者への影響が少なくなるように職員の指導を行い継続したケアができるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画を立て実施している 今年度の内部研修は教育委員研修担当者が中心になり、接遇・センター方式・認知症・医学的基礎知識・症状に合わせた調理法等について実施している 外部研修も研修情報をもとに参加している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	行っている GH協議会に入会をし、管理者研修・スタッフ研修に参加しネットワーク作りを行なっている また、他の研修会やセミナー、南区の管理者協議会での意見交換など行いケアに活かしている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	取り組んでいる 昼食後交代で休憩を少しの時間でも仕事から離れるようにしている 管理者は法人のGHの集まりで意見交換や問題点について解決する機会がある	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者からGH事業室を通して把握している 職員は年に2回健康診断が実施されてます 又、人事考課・自己評価を実施しており、資格習得後は賃金の見直しがおこなわれています	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に本人と面談を必ず行っている 又、自宅や入居前の施設へ行き生活状況等を確認している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の見学、契約前には時間をかけお話をうかがっている さらに、ご家族とは見学後にもう一度面談を行い、ご家族が求めているサービスがGHとして可能なのかを確認をおこなったうえで契約をしています	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学の時点でご家族の話を伺い、ホーム側からは必要以上に説明をせず入居できると勘違いされることもあるので最小限の説明を行っているさらにGHでの生活が可能なのか、現在入居されている施設の相談員やGH事業室検討、相談をしている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の決定はほとんどがご家族が見学し決められてますがそれまでの生活状況を伺ってケアの継続をおこなっていますまた、できる限り本人の見学や自宅から馴染みのものを持ってきていただくようにしています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご家族の面会時にはには日常の様子や情報を伝え入居者の生活面や、身体面の相談を行っている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の思いが代弁できるよう、日々の生活状況を細かく報告し、入居者の生活面や、身体面の相談を行っている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	なかなか面会にこれないご家族には毎月発行しているメールにコメントを書いて郵送したり、行事のお誘いをし一緒に過ごす機会を提供している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	前施設の気の合った人との面会をお互いに楽しみにしている入居者がおられ支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>お手伝いやレクレーション等一緒に作業などを行う機会を提供するなどしている</p>		
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>グループ内のグループホームに入居されている方のご家族様からの相談の電話や職員が異動になっても尋ねて来てくれる方もおります</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>○思いや意向の把握</p> <p>33 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>コミュニケーションを上手に図れない入居者間に職員が橋渡しをし入居者同士が支え合えや助け合える場面をもてるように関わっている</p>		
<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>34 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前はどのような生活をされており、ご家族様はどのような生活を望まれているのかを必ず聴いている 喫煙と晩酌ができるかを見学時に聞かれ、入居7年目の今でも楽しみにされています</p>		
<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>35 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>個々のできること、できない事を見極め個別に支援をしている 能力に応じてできるお手伝いや、散歩など体を動かす機会を提供しています</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>36 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族の要望や本人の思いをくみ取り職員全員で話し合い、計画書を作っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態に変化がみられない時でも3ヶ月ごとに見直し、緊急時はその都度見直し計画書の変更を行っている 見直し後はご家族に説明を行い、要望を伺うなど新しいプラン作成を行うようにしています		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の際は計画書に沿って書くように一緒にファイルしている 記録は個別にファイルして担当者を決め毎日している 介護計画の見直しの際には、日頃の記録からも評価するようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制をとっており、24時間訪問看護ステーションと連絡をとれる体制になっています また、同意のもと訪問診療をおこなっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議で町内会長や日頃から近隣の大学・商店とのかかわりを大切に し、入居者が地域へ出やすいように働きかけている また、地域の方に生花や音楽のボランティアの方にきていただいています		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容室・訪問歯科等利用している		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が出席するようになり意見や相談が出きる体制にある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にご家族様と相談をし、外来受診か訪問診療にしている医療機関についてはご家族様が決めている また、他の医療機関受診の際に職員が受診介助を行うこともあります</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ほとんどの入居者が訪問診療を利用され、いつも同じ医師が診ている 24時間医師と連絡が取れる体制になってます</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携体制をとっており、訪問看護ステーションの看護師が 週1回健康管理のため来訪しその際に相談できる体制になっていいます</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>管理者は入院先の相談員と情報交換を行い早期退院に向け相談をおこなっています</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>平成18年5月に「重度化した場合における対応指針」に関する説明を法人がご家族様に説明し同意をいただいている ホームでは一度も看取りをおこなってませんが、クリニックや訪問看護ステーションとの連携体制はできています</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>クリニック・訪問看護ステーションとの連携はできており、入居者・ご家族の意思を尊重して専門の医療機関などへ移れるように支援をしている 緊急時や急変の場合には医師の指示のもと迅速に対応しています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際には前施設から情報収集を退居の際には同意の下ケアが継続するように情報提供をしています</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>慣れによる言葉掛けや対応に対する注意、助言をしている 入居者のプライバシーが侵害されないような関わりかたするようにしている 個人情報の保管には十分注意を行っている</p>	○	<p>慣れによる言葉遣いや対応に乱れがみられ、尊厳をもって接するように意識付けを徹底していきたい</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>能力に応じて自己決定できる場面を作っている 意思決定できない入居者については日頃の関わりの中で本人の意思をくみとれるようし接している</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事時間と一日の流れはだいたい決まっているが、日中の予定はまったく決まっておらず、入居者がゆっくりした時間を持てるようにしています</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身支度等1人でできる入居者に関しては見守りをし、できない部分を援助している 近隣の床やを利用している方がいますが、移動美容室を利用されている入居者も居ます</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事作りの盛り付けや配膳のお手伝いをいただいている もやしのみや豆のすじ取りは 1人がはじめると2、3人が同時にお手伝いに参加される</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	疾患によって管理が必要な方もおられますが、医師の指導の下タバコや晩酌などができる体制になっている		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	プライバシーに配慮し個々に合った支援をしている 9名中6名の方がリハビリパンツや尿とりパットを使用しているが、日中は全員の方がトイレで排泄できるように声かけや誘導を行っている また、夜間は状況に応じてトイレ誘導を行っている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日できる体制にあるが、本人の意思を大切にしている 長期間入浴をされない方には下着を交換したり、汚染が多い方には下半身の清拭なども行っている		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は特になく、夕食後の早い時間にほとんどの方が休まれるが、そうでない方や寝つけない方には夜勤者が一緒に過したり、飲み物等を勧め安心して休めるようにしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居当時は色々なお手伝いができ役割を持っていましたが、現在は数名の方が職員と一緒にのひげとりや豆の筋とりのお手伝い、食器拭きやゴミだしを行っている		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の希望で預かっている方がほとんどですが、散歩がてら近くのコンビニへ行く際に本人にお金を渡し支払いのお手伝いをしている 本人が管理し仏壇の供物やタバコ・お酒を職員と一緒に買いに行かれる方も居ます		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の買い物や他のグループホームに入居されている方への面会などの支援をしている 外出機会の少ない方にはコンビニへの買い物に一緒に行ったり、天候の良い日は外気浴をするようにしている		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	雪祭り・花見・ラベンダー祭りなど、出かけています ご家族との外出もあります		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族からの手紙や電話があります 電話は聞こえやすいように自室や静かな場所に移動をしている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい雰囲気作りを普段から心がけ、訪問の際には自室でゆっくりできるようにしている		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束によって入居者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実践しています 自立支援の為ベット柵を使用している方にはご家族様に拘束であることを説明したうえで同意をいただいている		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が外に行きたそうな雰囲気が見られたときは職員が同行し散歩などの支援をしている玄関扉には家庭的な雰囲気を壊すことのないソフトな音のセンサーを扉に設置している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は一人の職員がリビングで入居者と一緒に過し、さりげない見守りを行っている 居室で過ごされる方については、時間を見て声をかけ安全を確認している また、夜間については放室や見守りを行い安全に努めている</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>ストックの洗剤類はカギの付いているロッカーに保管している 刃物類は使用後に鍵の掛かる引き出しに保管するなどしている</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>歩行レベルの低下に伴い転倒のリスクが高く、歩行の際には同行が多くなっている 食後の内服には名前を確認するなど注意をしている 事故が起きてしまった場合には事故報告書を作成し事故防止の話し合いを行っている</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>個々の状態を日々の観察の中で把握をし事故が起きないように、急変の場合の対応などを日常的に確認をするようにしている</p>		
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回法人の担当者の指導のもと防火訓練を実施している 防火管理者は日頃から建物の周りや倉庫などの点検をし安全を確認している また、カンファレンスの際にマニュアルや連絡網の再確認をしている</p>		
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日頃から電話やありんこメールに日常の様子を手書きをしたり、ご家族とコミュニケーション不足にならないように信頼関係を築き、状態に変化などに伴うリスクを説明している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	観察をし状態の把握に努めている 異変を感じた時は主治医や看護師に連絡し指示を仰ぎ早期の対応をしている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬は全員ホームで管理しており、服薬確認をしている 状態の変化で薬の変更があった場合には必ず申し送り、副作用がないか観察・記録している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	高齢と歩行の困難な方がほとんどで運動や散歩には限界があり、日常生活の中でホーム内の歩行やレクリエーションで身体を動かす機会を作っている 水分が取れるように10時と3時以外にも回数を設けている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に応じた支援をし口臭・歯周炎予防に努めている 毎食後洗面所へ誘導し、うがいや歯磨き支援をしている 冬場は特に風邪予防対策目的に行っている		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量の少ない方、介助が必要な方の場合には観察をし記録している カロリーが計算されたメニュー表と食材が搬入され、必要栄養摂取量がとれるように図られている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルの作成と利用、法人の担当者による会議での講習会など行っている インフルエンザ予防接種は入居者だけでなく職員も全員している また、ホームの衛生管理も担当者を決めチェック表を作成し実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>79 ○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>必要栄養摂取量が計算された食材が納入されている 冷蔵庫内掃除は毎日、まな板・包丁・布巾はその都度消毒し衛生管理をしている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>正面玄関は道路に面しており出入しやすい 玄関に鉢花を置いたり入りやすいように配慮している</p>		
<p>81 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テレビやソファ、食卓テーブルの配置を入居者の安全を配慮しながら、居心地よく過ごせるように心がけている また、室内には季節の花をたやさず家庭的な雰囲気になるように努めている</p>		
<p>82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓以外の椅子やソファを廊下や玄関、外(ベランダ)に置いている ベランダから外に出れるようになっており夏場は外気浴をしている</p>		
<p>83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際には可能な限り、自宅から馴染みの物を持ってきていただくようにしている 現在はカーテン以外皆様私物を使用されている</p>		
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居室はできない方については職員が個別に行っている 冬場は加湿器で湿度の調整もしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内に段差はありませんが歩行能力の低下に伴い、廊下や浴室に手すりを設置などしている 洗面所・トイレは車椅子の方が使用しやすい作りになっている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日々変化する入居者の身体状況、判断力の低下を把握し安全を重視した環境作りと混乱のない自立した生活を送れるように努めている		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	家庭菜園をしたり、花壇作り、その花をつんで飾ったりしている 駐車所での花火やベランダのウッドデッキでのティータイム、中庭での流しゾーメンをたのしんでいる		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 年齢的にも体力の低下が見られるが、日々の生活の中で、身体状況を踏まえた役割や楽しみが持てるように、出来ることを見いだしている。(調理の手伝い・洗濯物たたみ・ゴミだしの手伝い・運動・散歩・掃除の手伝い・トランプ・おはじき)
 また、3ユニットの特徴を活かしユニット間に出かけ手芸や音楽会を楽しんでいる